

ワンヘルス

ワンヘルスとは、人の健康、動物の健康、植物を含む生態系や環境の健全性を相互に関連するものとして捉え、一体的に守ることで、持続可能な社会の実現を目指す考え方である。従来、人の医療、獣医療、農業、環境保全などは、制度上や専門分野上、別々に扱われることが多かった。しかし近年、健康課題がこれらの領域をまたいで発生することが明らかとなり、分野横断的な連携の重要性が認識されるようになってきている。

この考え方が注目される背景には、人獣共通感染症の存在がある。高病原性鳥インフルエンザやエボラウイルス病など、動物との関わりの中で人へ広がる感染症は少なくない。また、新型コロナウイルス感染症の流行は、人の健康を守るには、人の医療だけでなく、野生動物や家畜の健康状態、それらを取り巻く環境を理解し、監視する必要があることを改めて示した。

ワンヘルスの重要な課題は、人獣共通感染症に限られない。世界的な問題となっている薬剤耐性も、医療、畜産、水産、環境が相互に関わる代表的なテーマの一つである。医療現場だけでなく、畜産分野や水産分野で使用される抗菌薬も、耐性菌の出現や広がりに関与する可能性がある。さらに、耐性菌や耐性遺伝子は環境中に拡散し、人や動物へ再び影響を与えることが指摘されている。このような問題には、医療、獣医療、農業、水産業、環境科学などの連携が求められる。

食品安全の分野においても、ワンヘルスの考え方は重要である。食中毒の原因となる病原微生物や薬剤耐性菌に加え、環境中の化学物質が食品を介して人や動物の健康に影響する問題も、ワンヘルスの視点から重要である。例えば、家畜や養殖生物の健康状態、水質や土壌などの環境条件、食品製造時の衛生管理は、最終的な食品の安全性に影響を与える。安全な食品を安定的に供給するためにも、生産現場から環境、人の健康までを連続したものとして捉える視点が欠かせない。

気候変動や生物多様性の損失も、ワンヘルスと深く関係する課題である。地球環境の変化は、生物の分布や生態系のバランスを変化させ、新たな感染症の出現や拡大、食品安全上のリスクを高める可能性がある。そのため、人の健康問題を考える際にも、環境保全や生態系の維持を含めた総合的な視点が必要である。

このようにワンヘルスは、生命と環境が相互に影響し合う一つのシステムとして理解する考え方である。感染症対策、薬剤耐性、食品安全、環境保全などの課題解決に向けて、多様な分野の専門家が協力するための基本理念として重要である。

(相根義昌)